

この度、月刊文藝春秋 2021年1月号、グラビア記事「同級生交歓」に松江北高昭和52年卒の諸兄が掲載されました。北高から社会へ巣立ち、今や角界のトップリーダーとして活躍されている方々の紹介記事をぜひお読みください。 2021年1月21日



島根県立松江北高等学校 昭和五十一年卒

島根県松江市 宍道湖畔にて (撮影・釜谷洋史)



同級生交歓

(右から) 鳥取赤十字病院脳神経外科部長

稲垣裕敬

松江市立病院診療部長

河野通盛

プラス常務取締役

北尾知道

山陰合同銀行頭取

山崎徹

タワハートナースセミコンダクターシラダイレクター

野津隆由

亜細亜大学都市創造学部教授

後藤康浩

アイエエワ建築設計事務所代表取締役

山根秀明

湖と城とお堀の街松江で、穏やかで豊潤な、ちよつと切ない高校時代を過ごした。理数科はもともと男子が多いが、我々の年だけ女子がゼロ。三年間クラス替えもなく男子だけで耐えたせいも、今も結束は固い。稲垣は剛速球、快足の抜群の身体能力で同級生を驚かせた。鳥取大学医学部に進み、くも膜下出血など多数の患者を救ってきた。河野は鳥取大学医学部を卒業後、虎の門病院で修業。松江に帰ってからは肝臓病の権威として名を馳せ、地域医療に貢献する。

北尾は東京大学工学部・大学院で都市工学を専攻、西武百貨店へ。今はプラスの常務としてファニチャー部門を統括。日本のオフィスを変えつつある。

野津は鳥取大学工学部から松下電器産業(当時)に進み、半導体一筋。イスラエル企業との合弁となった半導体事業を役員として支えてきた。

山崎は文系転向組。慶應義塾大学法学部を出て、山陰合同銀行へ。同級生には感じさせなかったバンカーの才能を開花させ栄進。今年遂に頭取に上り詰めた。地域社会のために頑張れ、同級生の声援を受ける。

山根は工学院大学・大学院で建築を学び、東京で修業の後、地元で建築事務所を開業。地域活性化の中核として活躍中だ。

後藤も文系転向組。早稲田大学政経学部から日本経済新聞社に入り、中東、ロンドン、北京などの特派員や論説委員、編集委員を務めた。今は大学に転身、アジアをフィールドに研究・教育にあたっている。

今、同級生が集うと話題は地元の高齢化や経済の衰退。北高パワーを結集して地域活性化を果たしたいものだ。(後藤)